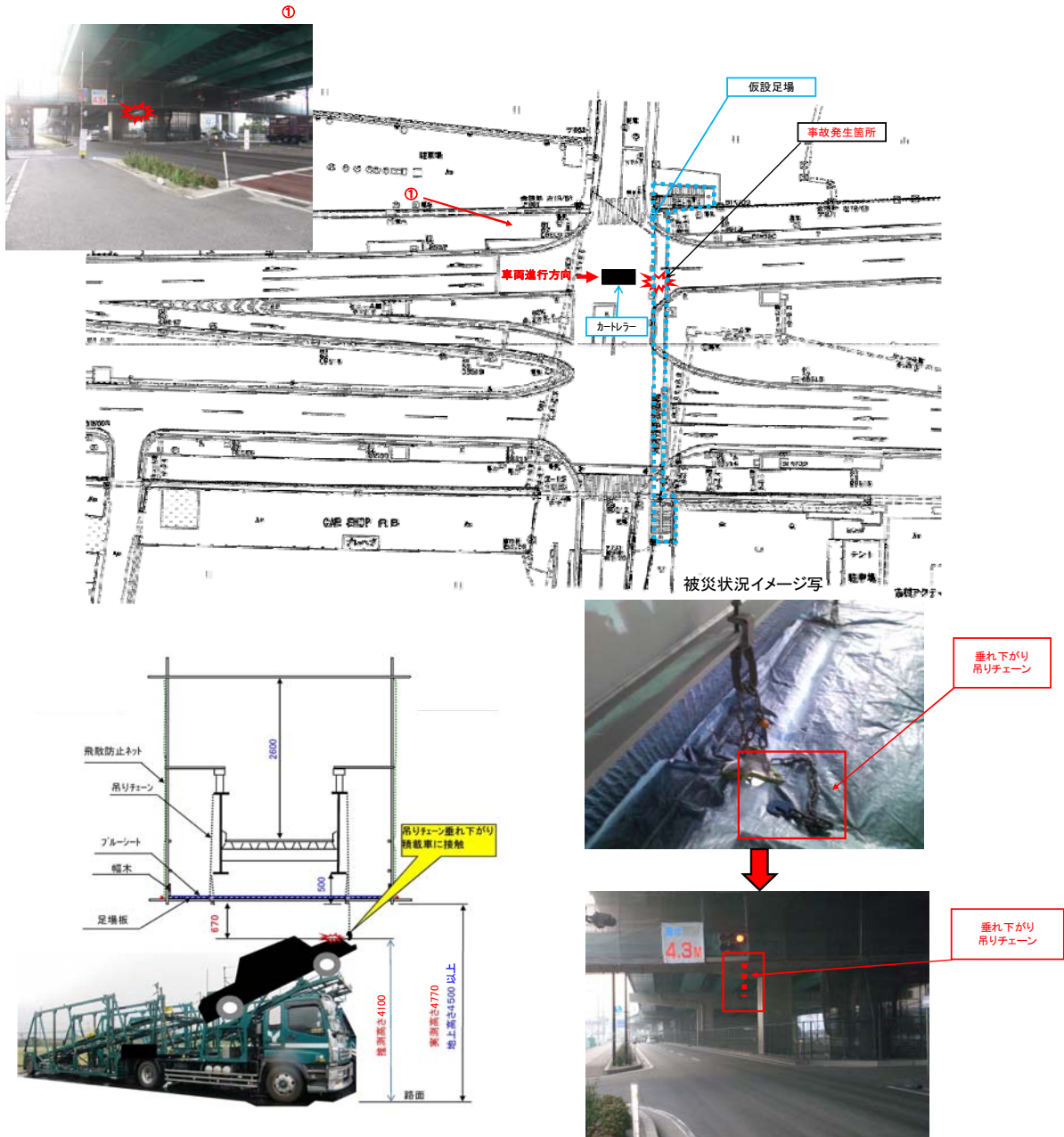


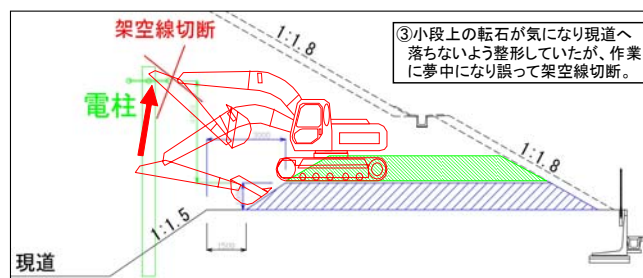
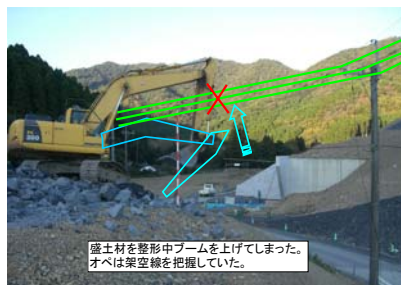
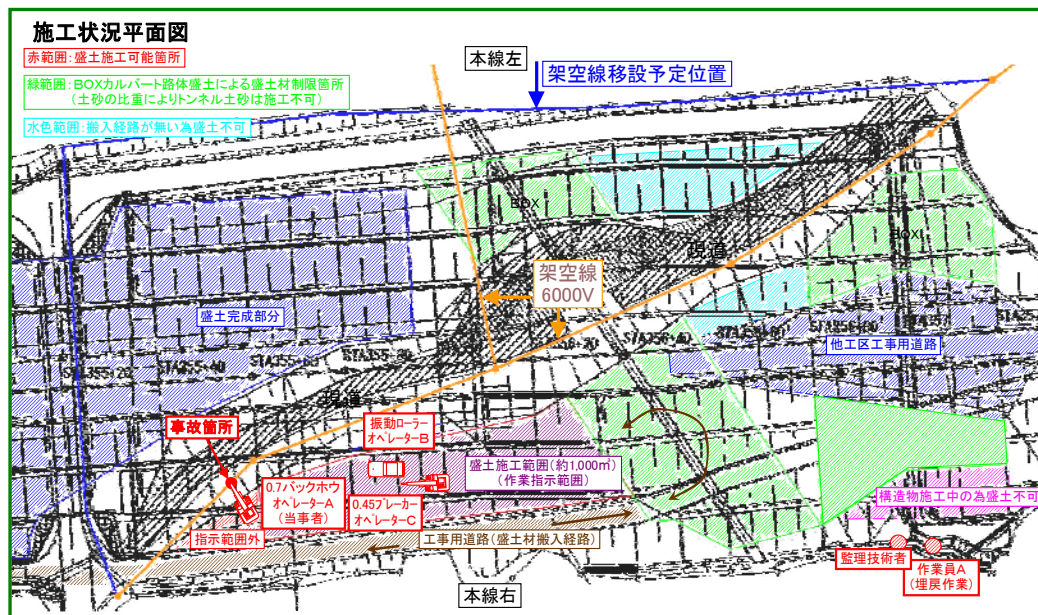
事故種類	一般事故	発生日時	平成21年11月22日	12時30分	
事故区分	公衆災害	年齢性別	-	職種	-
被災程度(全治)	積載していた乗用車のボディ及びテールランプの破損。				
事故概要	歩道橋塗装のため設置されている足場の隙間から垂れ下がっていた吊チェーン(鎖)と車両運搬車(カートレラー)に積載していた車が接触。				
事故原因等	<ul style="list-style-type: none"> 吊りチェーンの余り部を外して塗装作業を行った後、復旧を行わなかった。 ※足場設置後は、余りチェーンの端部処理をしていた。 吊りチェーンによる開口部の処理が作業手順書どおり実施されていなかった。 ※吊りチェーンによる一部の開口についてはベニヤ板等で落下防止処置をするよう記載有り。 作業終了後の安全巡視が細部まで実施されていなかった。 				
改善策等	<ul style="list-style-type: none"> 作業に支障を及ぼす恐れのある足場、仮設物の撤去または移動については、現場代理人または作業責任者に報告し、その指示に従い行動するよう徹底する。 全作業員に対して、施工計画書ならびに作業手順書を遵守するよう再度徹底する。 現場作業員の判断で行動しないよう現場代理人、主任技術者は新規入場者教育や安全訓練、KY活動時に作業員全員の安全意識の向上と現道工事の危険性についての教育を再指導・再徹底する。 塗装作業開始前に元請及び足場工、塗装工の作業主任者による合同点検を実施し危険防止に努める。 				
類似工事(他工事)へ活用できる対策等	振動等により足場から物が落下したり、たれ下ったりすることも考慮し作業終了後の点検を実施する。				

事故状況図



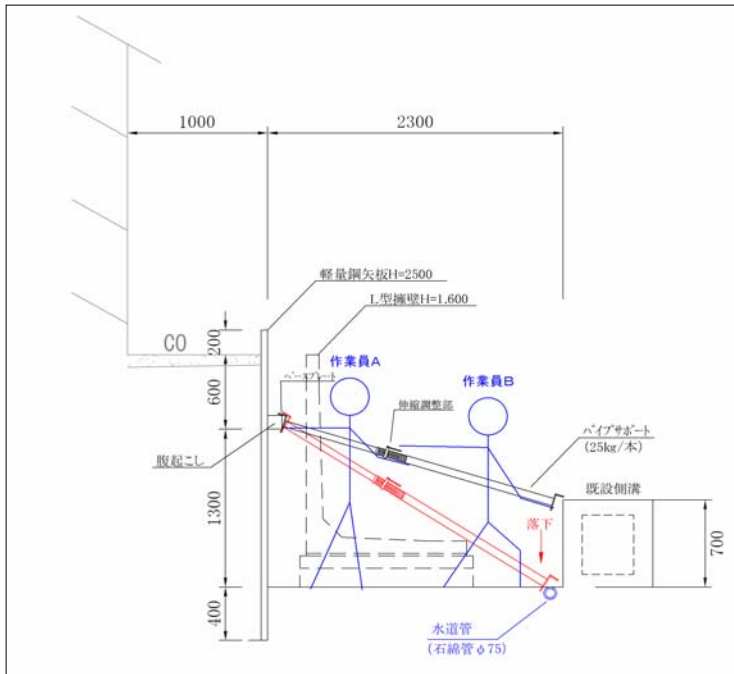
事故種類	一般事故	発生日時	平成21年11月23日	15時17分	
事故区分	公衆災害	年齢性別	-	職種	-
被災程度(全治)	九電の送電線切断 1分停電(580戸)、110分停電(ピニールハウス)、38分停電(38戸)				
事故概要	他現場からの発生土を受けるための盛土工事を行っていた。 架空線付近においてバックホウで敷き均しを行っていたが、市道側(架空線側)に向いて法面を押さえる作業中にバックホウのアームが架空線(九電)に接触し、切断した。				
事故原因等	<ol style="list-style-type: none"> 1. 作業範囲を指示されていたが、指示範囲外で作業を行ってしまった。 2. 連続した作業により、作業に対する慣れが出てしまい安全面に対する意識の欠落や安全確認等を怠った。 3. ダンプトラックによる土砂搬入が混雑した為、あせりが生じ安全確認を怠り、指定範囲外での作業を行った。 4. 架空線への安全対策を怠った。 5. 高圧線を切断したにもかかわらず、電力会社への連絡が遅れた。 				
改善策等	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事故箇所においては、架空線移設完了まで作業を行わない。 1)トンネル土砂は、この現場で土・祝日は受入しない。 2)作業計画書を改善し、作業前日に作業範囲を確認すると共に、KYにおいても各作業員の役割を認識させる事を周知徹底する。 2. 「架空線周辺作業手順書」を作成し、作業前日または作業当日においても、繰り返し、作業員に注意事項及び作業手順書の確認を行い、安全意識の向上を行う。 3-1. ゆとりを持った作業を行わせる為、一人に作業を押し付けるのではなく、作業計画時において補助者を指名し、役割分担を明確にする。 3-2. 現地において、ダンプトラックの搬入受入調整を的確に行う。 				
類似工事(他工事)へ活用できる対策等	<ul style="list-style-type: none"> ・移設が必要な電柱については、工事着手前に移設を行う。 ・全ての作業員等に対して、架空線切断防止対策に対する教育の徹底を行う。 ・電力会社への連絡は早急に行う。 				

事故状況図



事故種類	一般事故	発生日時	平成21年11月28日	11時30分	
事故区分	公衆災害	年齢性別	-	職種	-
被災程度(全治)	水道管破損(一般家屋2軒、墓地水道1箇所)				
事故概要	・擁壁工の床掘作業のための土留部材(パイプサポートL=2.3m)を、作業員2人で設置中に、誤ってパイプサポートを滑らし、床掘基底部に埋設してあった水道管(石綿管φ75mm)の上に落下し損傷した。				
事故原因等	・床掘基底部に水道管(石綿管φ75mm)が埋設されていることを、認識していながら防護工対策を実施していなかった。 ・適切な作業方法の指示指導が作業手順書に記入されていない。				
改善策等	・作業手順書により危険要因をしっかりと把握させ作業員への教育の徹底を行う。 ・埋設管は保護砂及び敷板等で確実に保護する。 ・パイプサポート設置時には、2人以上で、必要に応じて支持道具を使い確実に作業を行う。 ・作業に従事する者の手袋は、滑り止め加工を使用する。 ・埋設管位置の表土にマーキングを行い、位置を明確にして作業員に注意を促し作業をする。				
類似工事(他工事)へ活用できる対策等	・埋設管は保護砂及び敷板等で確実に保護する。 ・埋設管位置の表土にマーキングを行い、位置を明確にして作業員に注意を促し作業をする。 ・作業手順書により危険要因をしっかりと把握させ作業員への教育の徹底を行う。				

事故状況図



改善策

